

**SHOW HEY**シネマルーム

★★★

**ホイトニー  
～オールウェイズ・ラブ・ユー～**

2018年/イギリス映画  
配給：ポニーキャニオン、STAR CHANNEL MOVIES/120分

2019（平成31）年1月12日鑑賞 TOHO シネマズ西宮OS

**Data**

監督：ケビン・マクドナルド  
 出演：ホイトニー・ヒューストン  
 /シシー・ヒューストン/エ  
 レン・ホワイト/メアリー・  
 ジョーンズ/パット・ヒュー  
 ストン/ボビー・ブラウン/  
 クライブ・デイビス/ジョ  
 ン・ヒューストン/ケビン・  
 コスナー/ケニー・“ベイビ  
 ーフェイス”・エドモンズ

■ショートコメント■

◆2018年の後半は、ゴールデングローブ賞最優秀作品賞（映画ドラマ部門）、最優秀主演男優賞受賞（映画ドラマ部門）を受賞した『ボヘミアン・ラブソディ』（18年）の人氣が大沸騰。そのあおりを受けて（?）、アカデミー賞候補と言われていた『アリー スター誕生』（18年）の人氣はイマイチで、『ボヘミアン・ラブソディ』の後塵を拝している。そんな両作に続いて映画音楽を鑑賞することに。

本作はケビン・コスナーが主演した『ボディガード』（92年）の主題歌「オールウェイズ・ラブ・ユー」で有名な、ホイトニー・ヒューストンのドキュメンタリー映画だ。ドキュメンタリーもののがあまり好きでない私だから、本来は観ないのだが、ホイトニー・ヒューストンというビッグネームと、『ボヘミアン・ラブソディ』、『アリー スター誕生』という二大映画音楽と対比する意味で、本作を鑑賞！

◆母親が偉大なソウル歌手だったことと、ディオンヌ・ワーウィックとホイトニー・ヒューストンが従姉妹同士だったことを私は本作ではじめて知ったが、子供時代からの彼女の實力を見ていると、そのすごさを改めて痛感。『アリー スター誕生』のヒロインたるアリーは当時の人氣歌手ジャクソンが引き上げてくれたことによって歌手として頭角を現したが、ホイトニー・ヒューストンの場合はデビューした時からスター性は明らかで、発売曲はすべて連続トップを続けることに。彼女の結婚相手になった黒人歌手ボビー・ブラウンも理想的な男と思えたが・・・。

◆ホイトニー・ヒューストンの母親がそうであったように、女性歌手は子供が生まれることによって、その後の人生が大きく変わるもの。大スターとなったホイトニーはポ

ビーと結婚し、ボビーとの間に一女が生まれた後も、可能な限り子供を同行しながら歌手としてのツアーを続けたが、ドラッグに染まっていく中で、次第に・・・。

◆『ボディガード』はそれなりの映画で特筆すべきものではないが、その主題歌「オールウェイズ・ラブ・ユー」にはとにかくビックリ。私の大好きなTV番組「THE カラオケバトル」でも、この歌にチャレンジするのはよほど歌唱力に自信のある人だけ。MISIAや中島美嘉、そして絢香並みの実力がなければとても、とても……。アメリカの黒人歌手にはすごい実力者がいるものだと感心させられたが、よく考えてみれば、その頃のホイットニーが絶頂期。その後は・・・。

◆大相撲では千秋楽に君が代の斉唱が行われるが、これはかなり儀式化している。それに対して、ボクシングの試合や格闘技の試合前に行われる、有名歌手を招いての国家独唱は誰が歌うのかが興味深い。昨年の大晦日の格闘技「RIZIN. 14」ではメイン・イベントになる最終第14試合のスペシャルエキシビジョンマッチ（非公式戦）那須川天心 vs アメリカのフロイド・メイウェザーが対戦したが、その前に歌われたBENIによるアメリカ国歌とGACKTによる日本国歌は、それぞれ見応え（聴き応え）があった。もっとも、肝心の試合は1ラウンド2分19秒ノックアウトという予想どおりの(?) あっけないものだった。しかして、本作でホイットニーが歌うアメリカ国歌の独唱は如何に・・・？

2019（平成31）年1月15日記